

第 15 回熊本県腎不全看護研究会

みんなで考える医療倫理：物語る倫理

(ナラティブエシックス) のススメ

琉球大学医学部附属病院地域医療部 金城隆展 M.A. Ph.D.

医療の質と安全を向上させる上で重要と考えられる倫理だが、「難しく面倒なもの」といったマイナスなイメージを連想する人が多いように思われる。同様に倫理と言うと、多くの方は「聖人君子な生き方」や「“正義の味方” 的な生き方」などを連想するかもしれない。

本講演では「倫理」とは、詰まるところ、私たち1人1人が毎日の生活の中で直面する1つ1つの選択に真摯に向き合う態度に他ならないということを紹介し、さらにそのような「選択に向き合う真摯な態度」の一つとして「物語る倫理=ナラティブエシックス」を紹介する。

ナラティブエシックスとは、私たちが生きる個々の物語の文脈の中で「私たちは何をなすべきか?」「私たちはどう生きるべきか?」を考える、代替的な医療倫理アプローチである。臨床ではしばしば解決することが困難な倫理的問題が生じることがあるが、そのような倫理的困難をどうにか乗り越えることを可能にするのが「物語の共同著作」であるということ、本講演を通して皆さんと考えていく。

質問) 倫理委員会をうまく機能させるには、メンバーは誰にしたらよいか。

病院長は倫理委員長にならない方がよいと聞いたがどうか。

答え) 倫理委員会のメンバーは、他職種を入れて、異なる視点で意見が出た方がよい。

できれば、院外の人、顧問弁護士や、一般科学、人文学に關けた方、一般に近い人、男女比も同じにした方が望ましい。倫理委員長は、病院長ではない方がよい。

病院長は、倫理委員会に入らない方がよい。

委員長は、ファシリテーターでなければならないが、病院長は、病院中心の考え方になるため、立場上、公平公正にはならない。

質問) 悪性腫瘍の透析患者がいるが、患者の家族都の関わりがとれない。

答え) チーム医療で関わるようにする。担当 1 人で情報収集するのではなく、スタッフみんなで情報を集める。そしてその情報を集約する場が必要である。どのようにして情報を収集するかを意識することが大切である。